



小児固形悪性腫瘍



小児外科 部長

野口 伸一

はじめに

小児外科では小児がんのなかで胸部・腹部に生じたものを治療しています。主なものに神経芽腫、肝芽腫、腎芽腫、胚細胞性腫瘍があげられます。治療方針はそれぞれ異なりますが、抗がん剤（化学療法）、手術、放射線療法の組み合わせにな

り、当科では手術を担当しています。以下にそれぞれの腫瘍について説明いたします。

神経芽腫

日本では1年に200人以上に発生しています。平均診断時年齢は22ヶ月で、発生部位は、副腎が最も多く、続いて後腹膜、後縦隔、頸部、骨盤です。腹部腫瘍、腹痛、発熱、貧血、眼球突出、骨の疼痛、肝腫大などの症状があります。尿中にVMA、HVAと呼ばれるカテコールアミン代謝産物が排泄されることが多く診断に利用されています。治療は、腫瘍摘出が可能な場合は摘出術を行い、摘出できない場合はまず腫瘍生検を行って腫瘍の性状を調べ有効な治療法を選択します。予後因子として、がん関連遺伝子（N-myc遺伝子、TrkA、テロメラゼなど）があり治療方針に反映させています。良好な予後因子のみを保有する場合は、ほぼ100%に近い生存が得られますが、予後不良因子を多く保有する場合は、5年生存率は未だに50%をきっているのが現状です。

以前行われていた神経芽腫マススクリーニングについては、進行症例を減少させる効果や死亡率を低下させることには結びつかず、2004年4月から中止になりました。

肝芽腫

年間発生数は、30-40人です。45%は1歳前

の乳児期に、また80%は4歳未満に発症します。最近、低出生体重児（特に出生体重1,000g未満）に発生しやすい事実が知られています。腹部腫瘍、腹痛、発熱などで発症することが多く、血中の α -フェトプロテインが腫瘍マーカーとして用いられます。治療は外科的に切除しますが、切除不能な場合は化学療法を行ってから切除するのが一般的です。全体で66%の5年無病生存率が得られています。

腎芽腫（ウィルムス腫瘍）

1年に40-50人に発生しています。5歳以下の幼児に多く、様々な奇形を伴い、多くの症候群に出現することが多いという特徴があります。両側性も約5%みられます。腹部腫瘍、腹痛、発熱、血尿などの症状がみられます。手術では腫瘍を腎臓と共に摘出することが一般的で、手術後に腫瘍進展度と組織分類により化学療法や放射線療法が行われます。治療成績は約9割が助かるようになりました。

胚細胞性腫瘍・奇形腫群腫瘍

胚細胞（卵子、精子）のもとになる細胞が腫瘍化したもので、卵巣・精巣から発生するものが半数以上を占め、その他頭蓋内、頸部、縦隔、後腹膜、仙尾部に好発します。組織型は、1) 成熟奇形腫、2) 絨毛がんや卵黄嚢がん等の悪性胚細胞性腫瘍、3) 未熟奇形腫があります。小児では年間に100-120例の登録例があり、半数以上が良性の成熟奇形腫です。腫瘍マーカーとして α -フェトプロテインや β -HCGなどがあります。治療は原則として手術による切除が行われます。悪性胚細胞性腫瘍では、その進行度に応じて、手術治療や抗がん化学療法、放射線療法を組み合わせた治療を行います。成熟奇形腫・未熟奇形腫は予後良好ですが一部に再発がみられます。悪性胚細胞性腫瘍の5年生存率は全体で約85%です。

一日消防学校

平成22年2月2日(木)、当院の防災担当者を対象とした「一日消防学校」が松山市保健所・消防合同庁舎において開催されました。

当院では、防災に関する知識をより深めることを目的とした訓練の一環として、松山市消防局にお願いし、自主的に「一日消防学校」を平成元年より毎年実施しています。

受講内容としては、「防火管理と消防用設備」と「平成21年度の消防統計と住宅用火災報知器」についての講義、「火災・煙・有毒ガス」のビデオ視聴、「水消火器使用・煙避難・地震体験車試乗」の体験学習を行いました。受講者の皆さんには真剣に取り組んでいただきました。

もちろん、火災は起こらないことが一番望ましいのですが、不幸にも火災が発生した場合には、被害を最小限に抑えることが必要となります。今回受講された方々は、職員の皆さんに防火意識を伝達して頂きたいと思えます。



【地震体験車試乗】



【水消火器使用】

「リンパ浮腫外来」開設のお知らせ

リンパ浮腫外来 担当者(リンパ浮腫指導技能者) 看護師 瀬野 忍

リンパ浮腫とは、乳がん、子宮がん、前立腺がんなどの手術によるリンパ節の切除や放射線照射のあとリンパの流れが悪くなり腕・脚がむくむ症状です。「リンパ浮腫」により人目が気になったり、外出できない患者さんもおられ、松山赤十字病院ではこれらの対応を緩和ケアととらえ、悩みを少しでも和らげるため「リンパ浮腫外来」を平成21年10月より開設しています。

当外来では、リンパ浮腫指導技能者がリンパマッサージ、スキンケアおよび弾性包帯・弾性ストッキング着用の指導などを行い、一人ひとりに合わせたセルフケアを中心とした指導・支援をしています。「リンパ浮腫」の詳細な情報は、当院「がん相談窓口」(正面玄関右側)にて行っていますのでご利用ください。



玄関ロータリーの椿寒桜

今年も正面玄関に椿寒桜が咲きました。

昭和56年に当院の3号館、完成時に地元の有志の方々から贈られた5本の椿寒桜が今年も2月下旬に開花し、一足早く春を運んでくれました。

この椿寒桜は、桜の中では最も早く咲く花で花弁は小さくて紅色一重で、開花時も全開しないで止まってしまう。

当地の桜前線上陸が3月下旬ですのでこの椿寒桜は1ヶ月以上も早く開花し、開花期も長いようです。

不安な気持ちで来院される患者の皆様のことを癒してくれました。

(一口メモ)

椿寒桜は松山城の登り口、東雲神社の周辺にも咲いています。



(平成22年3月3日撮影)

